



親の苦勞初めて体験

堀内小学校（田村えい子校長、児童51人）の海づくり少年団の5、6年生児童16人は3月10日、堀内の漁業、石花繁美さん（43）ら5人の協力で、ワカメの刈り取り体験をしました。漁船に分乗した

児童らは沖合約2 km地点にある養殖漁場を目指しました。漁場に着くとワカメの刈り取り方法などの説明を受け、ロープに巻き付いているワカメを刈り取りました（写真）。「1本1本切ってちゃ駄目だ」などと注意を受けながら、児童たちは、親の苦勞の一端を垣間見たようでした。



事故に気を付けてね

黄色い帽子、傘贈る

4月7日、児童の交通事故の防止を願い、新入生を迎えた普代、堀内、鳥茂渡、黒崎の4小学校の新入生29人に、黄色い帽子と傘が贈られました。黄色い帽子は村交通安全協会（会長、深渡宏村長）から贈られ、黄色い傘はこの日、久慈地区交通安全協会普代分会（太田岩蔵会長）から贈られました。普代小学校の贈呈式（写真）では、太田会長と交通安全母の会の落合さち子会長が「学校に通うときは、事故に気を付けてください」と黄色い傘を手渡すと「ありがとうございました」と元気な声が帰ってきました。

村交通安全対策協議会（会長・深渡宏村長）や交通安全協会久慈支部普代分会（太田岩蔵会長）、村交通指導員、交通安全母の会、シルバー部会会員ら約五十人が参加し、春の交通安全期間中の四月八日、村内八カ所で交通安全街頭指導を行いました（写真）。「おはよう」と声を掛けると「おはようございます」と子どもたちから元気な声が帰ってきます。参加者らは黄色い羽とティッシュペーパーを手渡しながら、「車に気を付けて」と一人ひとりに交通安全を呼び掛けていました。

